

花田敬士, 植木敏晴, 他 (編著)

画像所見のよみ方と鑑別診断 胆・膵 第2版

入澤篤志

獨協医科大学・内科学 (消化器)

近年の Interventional EUS の進歩は胆膵診療に大きな変革をもたらしました。現在では診断的穿刺 (EUS-guided fine-needle aspiration : EUS-FNA) のみならず, Walled-off necrosis や膵仮性嚢胞, 胆道に対するドレナージなど, さまざまな治療にも広く応用されています。私は膵腫瘍などの診断に際しては, 本邦における EUS-FNA の黎明期のころから同手技を行ってきました。EUS-FNA は膵腫瘍の鑑別診断においては極めて有用な手技であり, 現在では胆膵領域診療において欠かせない手技の一つとなっています。

しかしながら, EUS-FNA といえど万能ではありません。例えば, 当初は悪性を疑いながらも EUS-FNA 結果が非悪性であった場合には偽陰性の可能性も考慮しなくてはならず, 経過観察するか, もしくは再度の EUS-FNA を施行するかといった判断には, 画像診断が極めて重要な役

割を果たします。私は EUS-FNA を行えば行うほど, 画像診断がいかに重要であるかを幾度となく認識させられてきました。また, 治療方針決定に際しては, その病態の良悪性を診断するだけでなく, 悪性であればその進展範囲を正確につかむ必要がありますし, 良性の場合はその原因についても深く考察しなくてはなりません。また, 胆道病変や膵嚢胞性病変に対する EUS-FNA の適応はかなり限られています。さらには, ドレナージなどの EUS 下治療に関しても, 画像からその適応をしっかりと考慮する必要があります。

全ての画像には, その画像が構築される理由があります。本書は, 各画像所見からみた診断へのアプローチについて, 病理所見を「答え」として設定し, 豊富な症例を用いて詳細に解説されています。各疾患がなぜこのような画像を呈するのかを論理的に理解できるように構成されて

いるため, 本書をしっかりと読めば実臨床において多くの「引き出し」を持つことができ, 胆膵診断能力は格段に飛躍するでしょう。画像診断はある意味で地道な作業で, Interventional EUS のような派手さはありません。しかし, 画像診断に精通することにより Interventional EUS の能力を最大限に生かすことができ, それが患者さんのためになることは間違いありません。ぜひ多くの若手医師に本書を読破していただきたいと切に願います。とはいえ, 本書は 400 ページもあるそれなりに厚い教科書ですので, 読破に自信のない方は「眺める」だけでもよいでしょう。それだけでも「チカラ」が付くこと間違いありません!

B5/頁 400/2019 年

定価: 本体 12,000 円+税

[ISBN978-4-260-03238-4]

医学書院 刊